

明治四十年十二月六日、京都府壬生にご  
生誕。

昭和十五年、小学校時代の友人小谷静子  
さんから『生命の實相』を愛行され、『人  
間は神の子』であり、病いは無しの真理  
を悟り、結核で病床に伏してから十七年、  
自らの生命で起ちあがる。

昭和二十一年、終戦の翌年に舞鶴に親子  
三人で移り住む。

(四十二歳の時、) 大門白糸橋の姉の家を  
会場にして「生長の家東舞鶴誌友相愛会」  
を発会。

昭和二十六年、両丹の七つの地域に地区  
連合会を結成。

昭和二十六年九月十五日、舞鶴で初めて  
谷口清超先生御指導の講習会を開催。

昭和二十七年六月、舞鶴で谷口雅春大聖  
師をお迎えして、講習会を開催。

昭和二十八年、舞鶴で谷口雅春大聖師を  
お迎えして二回目の講習会を開催。

昭和三十三年六月十五日、谷口雅春大聖  
師の講習会開催され、現在に至る。

**昭和三十五年六月十八日、住吉神社建立  
並びに生長の家両丹道場落慶。**

昭和四十五年一月、福井県教区教化部長  
を拜命。

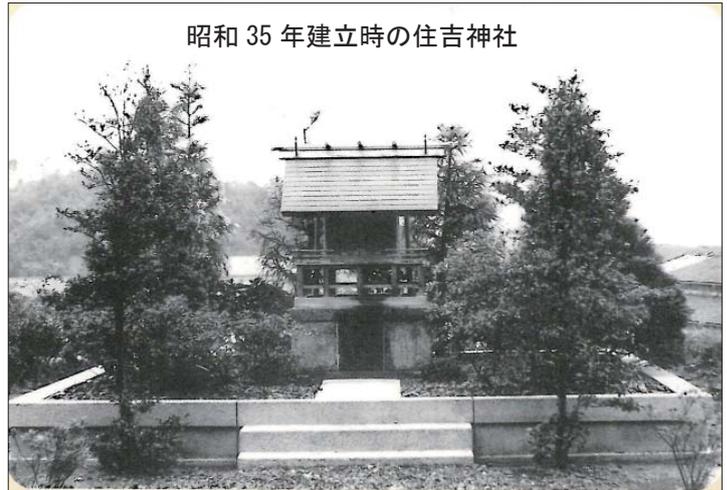
昭和四十九年、両丹地区が独立して京都  
第二教区が誕生。同教化部長を拜命。

昭和六十二年春、御年八十歳で京都第二  
教区の教化部長を退任。

平成二年七月三十一日 歿



昭和 35 年施工された両丹道場



昭和 35 年建立時の住吉神社

昭和の初期に「結核」と言えば、それは「不治の病い」を意味していました。私も、若い女学生時代に病魔に憑かれ、肺も内臓も脊椎も、全身が結核菌に蝕まれて十七年間も、病床に呻吟して、死を待つばかりでした。

昭和十五年のある日、もう三十三歳にもなっていました私の病床に、小学校時代の友達が訪ねて来ました。この時に不思議な御縁で生長の家の『生命の實相』の御本を戴いたのです。そして私は、『神の子人間』には病い無きなり」という真理によりまして「肉体無し」の世界がそのまま「病気無し」の世界となって、病床から立ち上がったのでした。それから毎日が光明と感動の日々となりました。「なんという素晴らしい教えだろうか」——この生長の家のみ教えを一人でも多くの方々にお知らせしたいという念願がフツフツ湧いて来ました。

戦後、舞鶴市に移り住むようになりましてからも、伝道の心は黙しがたく、自宅を道場としまして「生長の家東舞鶴誌友相愛会」の看板を掲げました。はじめは誰も寄りつかずの文字通り無からの出発でしたが、そんな中で私は、祈りと行を实践しようと思決意して、海岸の棧橋に行き、厳寒の中で百日間の神想観もしました。その頃の私は、毎日手弁当にモンペ姿で、両丹のあちらこちらと歩き廻り、数えきれないほど、多くの人々に会い、み教えをお伝えしていきました。

昭和二十六年には、両丹の七つの地域に、地区連合会を結成するまでになり、この年に舞鶴にはじめて谷口清超先生をお迎えして講習会を開かせて頂くことが出来ました。私の心の中には、み教えの魅力につかれ、何かじっとしてられない内からの召命にうながされ、神様に動かされるように伝道をさせて頂きました。昭和三十五年には、奇しき因縁によりまして住吉神社が建立されて、生長の家両丹道場が誕生しました。

この頃は、両丹道場の長期練成に参加された多くの方々が、それぞれの地域の相愛会、白鳩会、青年会の中心になって活躍され、組織的にも着々と発展して行きました。その後、私は福井県の教化部長を拜命し、昭和四十九年には、両丹地区が独立して京都第二教区が誕生しました。この間も道場の長期練成を続けながら両教区にみ教えを伝えて来ました。

想えば早いもので、戦後四十四年経って、私の人生の歩みも八十路にさしかかりました。眼を閉じますと色々なことが思い出されますが、これまでにどれだけ多くの人々の誠心に接し力づけられて来ましたことか、はかりしれません。只々、合掌させて頂くのみです。——後略